

在日朝鮮人社会における親密圏と公共圏の変容

Transformation of Intimate and Public Spheres in the Zainichi Korean Society

山口 健一（京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員）

【メンバー】

李 洪 章（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程 / 日本学術振興会 特別研究員）

孫 片田 晶（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程）

橋本みゆき（立教大学兼任講師ほか）

金 泰 植（九州大学大学院比較社会文化学府 博士後期課程）

【ねらいと目的】

2008 年度の本研究ユニットの課題は、植民地主義を伴って近代化が進んだアジア地域における、在日朝鮮人をはじめとしたコリアン・ディアスポラの親密圏と公共圏の変容過程を明らかにすることと、コリアン・ディアスポラの新たな「圏」の創出を研究対象とする、韓国と日本の大学に在籍する次世代研究者間のネットワークを形成することの二点であった。

前者の課題において在日朝鮮人社会における親密圏と公共圏の変容のプロセスを解明すべく、多角的な視点から調査研究を行ってきた。しかしながら時間の制約上、(1) インタビューや参加観察が十分に行えなかったこと、(2) 親密圏ないし公共圏と関連させた十分な考察ができなかったことという問題点が浮上した。これらの反省を踏まえて 2009 年度の本研究ユニットは、引き続き在日朝鮮人社会における親密圏と公共圏の変容を多角的に研究する。また引き続き、韓国と日本の大学に在籍する次世代研究者間のさらなる学術的交流を図る。

【活動の記録】

7月 21～22 日

京都大学文学研究科 GCOE・ソウル大学日本研究所国際学術交流ワークショップ

報告者：山口健一（「地域」に根ざした「共生」の民族まつり）

李洪章（在日朝鮮人研究の変遷と現在）

孫片田晶（ウトロのこれまでを少し振り返って）

12月 15～20 日

宮城県仙台市フィールドワーク（山口健一、仙台市の在日朝鮮人の市民団体に参加）

12月22～23日

京都大学・ソウル大学国際学術ワークショップ「コリアン・ディアスポラの親密圏と公共圏の変容」

報告者：山口健一（在日朝鮮人－日本人間のコミュニケーション様式の事例研究）

李洪章（朝鮮籍者のナショナル・アイデンティティ）

孫片田晶（「在日である自己」をめぐるコミュニケーションの現在）

橋本みゆき（「内鮮結婚」あるいは在日韓国・朝鮮人一世と日本人の結婚に関する実態調査 中間報告）

金泰植（民主化以降、韓国映画における在日朝鮮人表象の変化と連続性）

1月22～24日

東京近郊の在日朝鮮人団体のフィールドワーク

（孫片田晶、マイノリティ問題研究会に参加）

3月19～20日

宮城県仙台市フィールドワーク（橋本みゆき、仙台市の在日朝鮮人の市民団体に参加）

【成果の概要】

具体的にはそれぞれが以下の研究を行った。

在日朝鮮人と日本人との間で形成される公共圏の事例研究（山口健一）

在日朝鮮人と日本人が参加する「パラムせんだい」という事例に着目し、相互行為秩序の分析を行った。そして相互行為論からみる公共圏の再編成のプロセスの解明を目指した。その結果、在日朝鮮人に関する論題を語れずかつ自分の意見を語りづらい現代日本社会の中で、在日朝鮮人と日本人が互いに民族性を表象したコミュニケーションは、自律した個人によってこそ成立することが示された。

朝鮮籍在日朝鮮人の生存戦略の研究（李洪章）

外国人登録法上の国籍表記である「朝鮮籍」を有する在日朝鮮人が、日本社会・韓国社会からいかに眼差され、それに対して朝鮮籍に主体的な意味づけを行うことで生存戦略を打ち立てていくのかを考察した。その結果、日本社会や韓国社会、多文化共生論者における「朝鮮籍者」に対する一元的な見方に回収されないものであることが示された。

在日朝鮮人学生の就職活動の実態と戦略の研究（片田孫晶）

関西圏の学生・現職者たちが、外社会との葛藤・交渉の重要な契機である「就職」に対してどのような戦略を形成し、かつ「在日である自己」をどのように提示するのかを考察した。その結果、就職活動における「在日である自己」の提示がいわばタブーとなっている日本社会において、「在日である自己」の話題化が現実の打開に向かう一つの戦略として模索されている点が示された。

在日朝鮮人－日本人間の「国際結婚」における親密圏変容の研究（橋本みゆき）

昨年度に引き続き在日朝鮮人の若い世代と日本人との結婚事例のほか、その親世代および祖父母世代の民族間結婚にも対象を拡げ、世代間の変遷や特徴を考察した。その結果、在日朝鮮人共同体内部の女性に対する規範によって在日朝鮮人女性は日本人との結婚が困難であったこと、それに比べ男性は、共同体外部にも属すがゆえにより日本人女性との結婚が容易であったという仮説が示された。

在日朝鮮人社会に関する映画の表象分析（金泰植）

映画『ウリハッキョ』に着目し、その表象分析を通じて、映画を通じた在日朝鮮人に対する承認の政治の一端を明らかにした。特に、韓国ナショナリズムの境界をめぐる記憶の政治に注目しながら考察した。その結果、『ウリハッキョ』は歴史的な文脈が抜け落ちた形で表象されており、それにより図らずも在日朝鮮人を他者化し、脱政治化したうえで韓国社会の「ウリ（われわれ）」として取り込まれる危険性があることが示された。



